

平成26年度 学習指導改善調査協力校の取組

三条市立月岡小学校

1 研究の方針方針

- 研究と研修を通して、児童に基礎・基本の力を定着させる。
- 研究と研修を通して、学力を向上させることができる授業力を身に付ける。

2 研究テーマについて

校内研究テーマ 「意欲的に学び 表現する子どもの育成」

<学年部テーマ>

低学年「学習規律を身に付け、自分のことばで表現する子」

中学年「自分なりの考えをもち、相手に伝わるように筋道を立てて表現できる子」

高学年「互いの考えを広げたり深めたりしながら、自分の考えを創り上げる子」

当校ではこれまで、「基礎・基本の定着を図る指導」「どの子にも基礎・基本の定着を図る授業の創造」のテーマにおいて基礎・基本の充実に、「読みの力を高めるための指導の工夫～言語活動の充実を通して～」において読解力の向上に、「意欲的に学び 表現する子どもの育成」において表現力の育成に取り組んできた。今年度は新潟県小学校教育研究会の学習指導改善調査事業の協力校となって2年目である。

事業の目的「当県学校教育の重点課題である確かな学力の向上を図るため、考える力（身に付けた知識や技能を活用できる力）に関する実態調査を実施し、その後の学習指導の改善に資する。」を受け、本事業への協力を研修の中心に据え、上記の研究テーマを設定することにより、子どもの思考力・表現力の育成に努めることとする。

3 具体的な取組について

(1) 全学級公開によるオープンアプローチ

「表現力」「思考力」という切り口をもちながら、各学年部において研究テーマを設定して、学年部研究という体制で実践を積み上げてきた。教科を限定せず、手立ても職員一人一人が得意とするものや確かめてみたい方法を探り上げたので新鮮味があり、参考となる部分が多かった。

(2) 標準調査、各種検査の活用

学習指導改善調査協力校であるので「思考力」「表現力」の育成に主眼を置いて研究を進めてきたが、NRT、全国学力学習状況調査の結果は児童の実態を把握する上で欠くことはできない。昨年度から協力校の取組を継続しているが、読解の領域で若干の伸び悩みがあることが判明した。研究ではテーマの下に実践を進めていくが、日常の取組では読解や技能を軽んじることなく、バランスのよい指導に努めてきた。

(3) 小中9年間の学びを意識した授業

小中9年間の流れを大切にし、実践する単位ではどのような力を身に付けさせればよいの

か、そしてこの力が今後どのように発展していくのかを授業者が把握し、指導案に簡潔に記述するよう心がけた。

(4) 改善の手立てを明記した指導案

指導案の簡易化を図るとともに、本単元、本時における改善の手立てを明記することで、その後の協議の焦点化を図った。

(5) 共通の参観カードの使用

成果の積み上げを確実にするため、研修テーマに沿った視点、授業一般の視点、この2つの視点で授業を参観することとした。参観者はカードを持参し、テーマに関して意見を交換する。授業一般の視点については、授業者が今後の授業改善の糧とするスタイルをとり、協議の効率化を図った。

(6) 通信発行による成果と課題の共有

学年部研究であるので、常に全ての職員が参観できるわけではない。部分的に参観する者、協議会に参加できない者もいる。研究推進委員会では協議会で話し合われた成果と課題を、学力向上通信を発行し全職員がその成果と課題を共有できるように努めた。

(7) Web配信集計システムの活用

過去問題、診断問題、サポート問題を1つのセットとしてとらえ、この流れを維持するよう努めてきた。実施に当たっては、対象となっていない低学年の職員も作業に当たり、全学年が携わる形をとった。実施、採点は学級担任が行うが、それ以外の印刷、入力作業は級外が行った。全県のデータがそろい次第、担当は結果を学年に返し、学級担任はそれをもとに自学級の分析を行い、さらに研究推進委員会はその結果を通信により全職員に配付し、自校の実態を把握することとした。

(8) 日常の授業改善を点検するチェック

授業研究だけでなく日常の授業改善が意識されているか、研究推進委員会にて進捗を確認し、学校評価にて共有した。学年部ごとに、テーマに対する取組がなされているか成果と課題を洗い出した。

4 各学年部の取組と成果

(1) 低学年 『学習規律を身に付け、自分のことばで表現する子』

低学年では主に学習規律の定着とともに、自分のことばで表現できる児童を目指して取組を進めてきた。具体的な手立てとしては「書いたものが生かされる場の設定」「段落を意識して書くための工夫」「自信をもたせるための途中経過の発表」が挙げられる。

日常の指導では、継続的な作文ノートの活用、体験文の作成、当番のスピーチ、話形提示を継続して働きかけてきた。

以上のことから、児童はある程度まとまった文を書くことができるようになるとともに、書くことによって自分の考えを明確にすることができるようになってきた。

(2) 中学年 『自分なりの考えをもち、相手に伝わるように筋道を立てて表現できる子』

自分の考えをもちそれを表現できるよう、考えるツールとしてのモデル図や表、表現するための文型やキーワードの提示を試みてきた。またペアやグループで考えを共有する場面を設定し、その比較を挙手で確認したり、ペアからグループ、さらに集団での発表と段階を追

った発表形態を取り入れた。

以上のことから、提示された図や文型をもとに、自分の考えを書くことができる児童が増えてきた。また、発表経験を積むことで、主体的に考えを伝えようという態度、自分の考えと比較しながら友達の発表を聞く態度が育ってきた。

(3) 高学年 『互いの考えを広げたり深めたりしながら、自分の考えを創り上げる子』

5年生では、主に「ループリック」により、考えの到達度と見通しをもたせることで、スムーズで深い思考を促すとともに、意欲付けを図った。また話し合い活動では、ポータブルのホワイトボードを活用し、児童間の学び合いを試みた。

6年生では児童の意見を集約・還元することで、複数の考えから自分に合うものを選ぶ場面を設定し、主体的な取組を促してきた。また問題解決の過程においては「伝え合う・説明する」などの表現活動を中心に据えて取り組んできた。

これらの試みから、5年生では児童がめあてを把握し、学習の流れを理解した活動が見られた。また集団においては、文言としての形は残らないが、書いたり消したりできるホワイトボードが説明や理解に有効に働いた。

6年生では、意見の集約・還元作業により時間の節約になり、話し合いの時間を確保できたこと、全員の考えを共有し合うことで、考えがより広まるという効果が見られた。

高学年においては以上の取組から、児童の学習への意欲が高まり、自分の考えを整理、再構築するなど筋道立てて活動する力が育ってきたといえる。

5 今後の課題

(1) 児童の姿からの課題

表現力においては、原稿用紙の使い方など文章表記上の課題が挙げられた。これは中・高学年においても課題であり、繰り返し指導が必要な部分である。自分の思いや考えを正確に伝達、表出するには正しい文章表記が不可欠であるので、要検討課題とする。

自分の考えを文章に記したり、お互いに意見交換をする際、自分の考えの根拠となることを効果的に添えられない場面が多く見られた。課題となる事象の因果関係を児童が正確に把握できるよう、丁寧な指導を心がけたい。

思考力においては、論理的な思考を行う際、その材料となる資料の解釈不足があったり、考え方の手順や表記上のスキルが不足していたりするなどして活動が停滞する場面が見られた。研究テーマは思考力、表現力の領域であるが、それを底支えする読解力や技能のスキルが確かでなければ、活動は表面上のものとなってしまう。評価の項目に挙げる挙げないにかかわらず、日常の指導においては基礎基本の力を確実に定着させるよう努めなければならない。

(2) 運営活動上の課題

全体テーマを設定し、実践上は学年部で研究を進めていくというスタイルをとって数年を経ている。個々の実践は新鮮で効果のある成果があるのだが、研究全体としての成果が見えづらいという反省が挙げられた。一体感のある研究をどのように構成していくか、研究推進委員会にて検討していきたい。

また児童の思考力、表現力を育てるということに取り組んできたが、児童にその下支えとなるスキルを保障する職員研修が十分であったか吟味しなければならない。職員研修として

教師が身に付けるべき内容を全職員で共有できる場を設定していく必要がある。研究と同時に研修の在り方も転換期にあると考える。

第5学年算数科 実践まとめ

I 本単元の指導案

1 単元名

「図形の面積」

2 単元のねらい

- (1) 平行四辺形や三角形、ひし形、台形の面積の求め方を、既習の正方形や長方形の面積の求め方をもとに考えようとしている。(算数への関心・意欲・態度)
- (2) 既習の求積方法をもとにして、倍積変形・等積変形などの操作を通し、図形の面積の求め方を考えている。(数学的な考え方)
- (3) 求積公式を活用し、基本的な図形の面積を求めることができる。(数量や図形についての技能)
- (4) 平行四辺形、三角形の面積の求め方や求積公式の意味を理解している。また、平面図形の面積の大きさについての豊かな感覚をもっている。(数量や図形についての知識・理解)

3 指導計画 (全13時間、本時5 / 13時)

次	時	学習のねらい	主な学習活動
1	1	○平行四辺形を長方形に等積変形して、面積を求める。	・周りの長さが等しい長方形と平行四辺形の面積の大小について話し合う
	2	○平行四辺形の面積を求めるための必要な長さを考える。 ○底辺、高さという用語を知り、平行四辺形の求積公式を作る。 ○平行四辺形の必要な長さを測り、面積を求める。	・平行四辺形の面積を求めるために、必要な長さを考える。 ・平行四辺形の面積を求めるために必要な長さについてまとめ、求積公式を作る。 ・平行四辺形の必要な長さを測って、面積を求める。
	3	○平行四辺形の高さが分かりにくい場合について、面積の求め方を考える。	・底辺に垂直に引いた直線が向かい合った辺に交わらない場合について考える。 ・周りの測り方に気付く。
	4	○底辺と高さが等しい平行四辺形の面積を考える。 ○平行四辺形の面積と高さから、底辺の長さを求める。	・底辺と高さの等しい平行四辺形は、面積が等しいことに気付く。 ・平行四辺形の面積と高さが分かっている場合に、底辺の長さの求め方を考える。 ・平行四辺形の求積公式をもとにして、底辺の長さを求める。

2	5	○三角形を既習の図形（長方形・平行四辺形）に変形したり、倍積変形のしかたを工夫したりして三角形の面積を考える。	・平行四辺形や長方形に変形して、三角形の面積を求める。
	6	○三角形の面積を求める公式を考える。 ○三角形の底辺と高さの関係を理解し、三角形の求積公式を作る。 ○三角形の必要な長さを測って、面積を求める。	・三角形の求積公式を考える。 ・前時で調べたことをもとにして、三角形の求積公式を求める。 ・三角形の面積を求める場合、底辺と高さが相対的に決まることを、操作を通して理解し、必要な長さを測って面積を求める。
	7	○頂点から底辺に引いた垂線（高さ）が、底辺延長線上で交わる場合の三角形の面積の求め方を考える。 ○三角形の高さについて、理解を深める。	・三角形の高さが底辺の延長線上にくる場合の面積の求め方を考える。
	8	○底辺も高さも等しい三角形の面積を考える。 ○三角形の面積と底辺の長さから、高さを求める。	・底辺の長さが高さが等しいいくつかの三角形の面積を求め、面積が等しくなることを確かめる。 ・直角三角形の斜辺を底辺としたときの高さを求める。
3	9	○台形は、3か所の長さを調べれば計算で面積が求められることに気付く。 ○台形の面積を求める公式を考える。	・台形の求積公式を考える。
	10	○ひし形は、対角線の長さを調べれば、計算で面積が求められることに気付く。 ○ひし形の面積を求める公式を考える。	・ひし形の求積公式を考える。
	11	○一般の四角形や五角形は、いくつかの既習の図形に分割すれば、面積が求められることに気付く。	・一般の四角形や五角形の面積の求め方を考える。 ・求積のできるいくつかの既習の図形に分割すれば、面積が求められることに気付く。
	12	○既習事項の理解を深める。	・既習事項の理解を深める。
	13	○既習事項の確かめをする。	・既習事項の確かめをする。
		○図の条件から、どんな四角形かを判断して面積を求める。 ○必要な長さを測って、五角形の面積を求める。	・直角二等辺三角形にできた平行四辺形について、図形の性質を用いて、その面積を求める。 ・長さのない五角形について、必要な長さを測り、既習の図形に分割することで、面積を求める。

4 9年間を見通した学びのつながり

本単元では、既習の求積方法を基にして、具体物や図、式を用いて、倍積変形・等積変形などの操作を通し、平行四辺形、三角形、台形、多角形などの面積の求め方を考えていくことに重点を置く。

これまでに、4年生「面積」の学習で、広さを数値化する方法や面積の単位について学習を深めてきている。また、長方形や正方形の面積の公式を覚え、それらの面積を求めることができるようになってきている。ここでは、それらの学習を基にしなが、児童自身の具体的な操作活動を通しながら、自らの活動で三角形や四角形の求積公式を導き出していくことが重要となる。このことは、6年生「いろいろな形の面積」の学習における円の面積や身近なおおよその面積での、既習事項を活用した求積へとつながっていく。

5 本時

(1) ねらい

- 三角形を既習の図形（長方形・平行四辺形）に変形したり、倍積変形のしかたを工夫したりして三角形の面積を考える。 (数学的な考え方)
- 三角形の面積を計算して求めることができる。 (数量や図形についての技能)

(2) 授業改善の視点

校内研究テーマ 「意欲的に学び 表現する子どもの育成」
 ～言語活動の充実を通して表現力を高める～
 高学年部テーマ「互いの考えを広げたり深めたりしながら、自分の考えを創り上げる子」

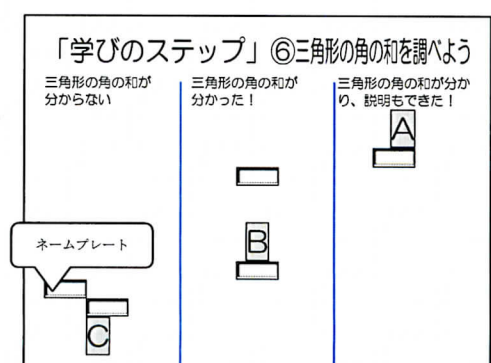
① ルーブリックによる意欲向上

ノート単元を通してルーブリックを活用する。ルーブリックとは、児童のパフォーマンスがどの程度目標に達しているかを採点するために、数段階に分けて設定する指標のことである。広義には評価基準と言える。例を挙げる。

時	観点	評価規準	評価基準		
			A	B	C
6	考え方	三角形の3つの内角の和が 180° であることを帰納的に考えている。	三角形の角の和を求め、他者に説明することができる。	三角形の角の和を求めることができる。	三角形の角の和を求めることができない。

これだけなら一般的な評価基準表と変わらないが、ルーブリックの特徴として、「教師と児童が共有する」という点がある。そのため、評価基準も児童がより分かりやすいような表現で示す。

本単元では、ルーブリックを「学びのステップ」という



形で児童と共有する。複雑にならないよう児童と共有する評価規準は1時間1規準とし、 $\boxed{C} \rightarrow \boxed{B} \rightarrow \boxed{A}$ の3段階で授業の途中や授業後にネームプレートで評価する。(別紙①)

ルーブリック最大のメリットは、児童が自らの立ち位置を自覚することができる点である。それによって、主体的に追求しようとする意欲が高まる。また、その時間の目標を意識したり、その時間中の自分の進歩を実感したりすることができる。その積み重ねが、単元を通して主体的な追求を生み出すことにつながると考える。

② ノート指導による学習理解の促進、ホワイトボードによる学び合いの充実

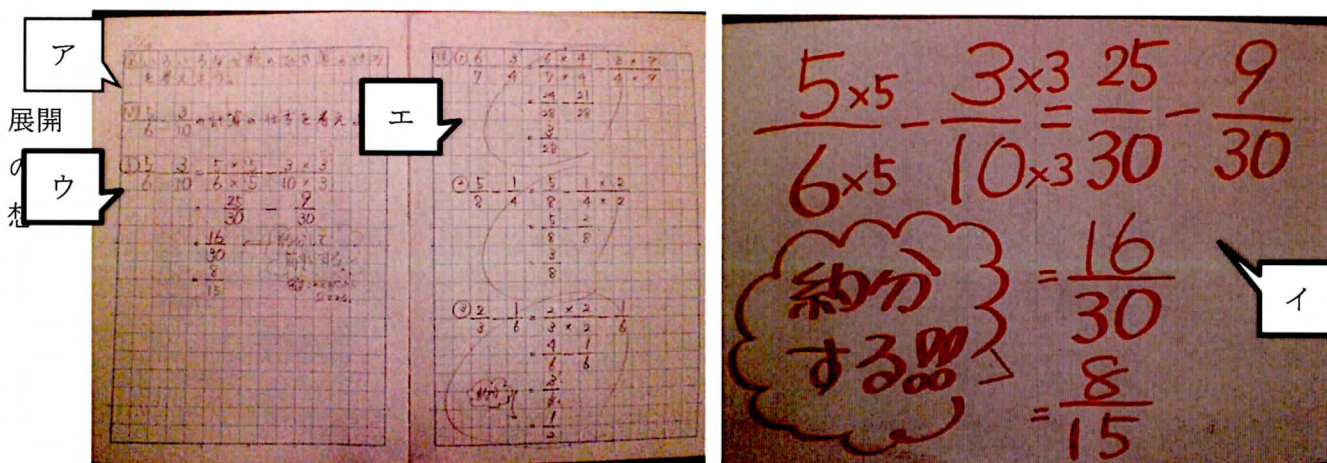
ノートの書き方は単元を通して統一する。それにより、児童が見通しをもって授業に臨めると考える。また、見通しをもつことによって、主体的に課題に取り組んだり、ノートを書いたりすることができる。ホワイトボードを一人一枚配布し、自分の考えを表現するものとして使用する。さらに、それをそのまま黒板に貼れるようにして、全体に共有しやすい形をとる。以上のことを踏まえて1時間の中で書く項目をア、イ、ウ、エの4項目に分け、思考を整理できるようにしていく。

ア ねらい、問題文を書く。(ノート)

イ 自分の考えを自由に図や言葉や式で書く。(ホワイトボード)

ウ 友達の考えを見聞きしてまとめる。(ノート)

エ まとめたことを活かして練習する。(ノート)



入では、前時までに学習してきた正方形、長方形、平行四辺形の面積の求め方や面積公式を確認する。その際、今までに習った面積の求め方を使えば答えを求めることができるということにも触れておく。

そこで本時の課題が「三角形の面積の求め方」だということを知らせる。前時の平行四辺形の面積を求める際に「切って、違う場所にくっつけて、正方形や長方形にした」ことを想起させる。そして、三角形も形を変えて正方形や長方形に変形できそうかどうか、見通しを立たせておく。その後、ルーブリックで本時のめあてを全員で確認する。

次は三角形の面積の求め方(既習の形に変形させること)を一人一人ホワイトボードに書く作業に移る。ホワイトボードには言葉が書いてあっても大半は注目されないため、基本的に図や式で表すように指導する。切る箇所に点線を引かせたり、手順をマンガのように順番が分かるように書かせたりすることで、ひと目見た時に分かりやすくなることもアドバイスしておく。発表に移る前に、既習の形に変形できたかどうかルーブリックの中間評価を行う。この際、 \boxed{B} 評価に属

することができる。本時の中で自分が進歩したことを実感できると良い。

自分の考えを発表する際は、ホワイトボードを黒板に貼り付けてから、言葉で説明させる。ある程度等積変形や倍積変形での求め方が出たら、自分が思った「早くて、簡単で、正確な（はかせ）」考え方をノートにまとめさせる。また、面積の答えも算出させてから再度全体でルーブリックの評価を行う。

授業の最後に三角形の面積を求める問題を一問し、本時で学習したことを活かしているか確認し、本時は終了とする。

全員がルーブリック「学びのステップ」の **A** 評価に到達しようという雰囲気を生み出せるように、授業中の声かけなどに配慮していく。

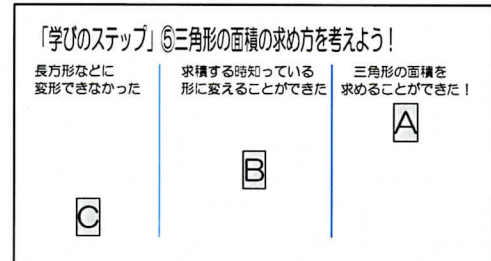
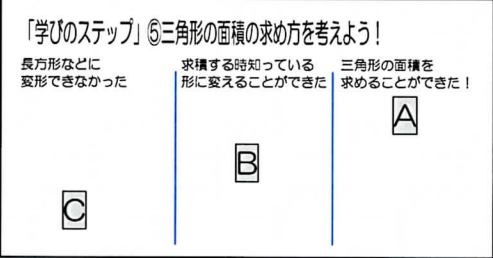


図 1

変形要素	等積変形			倍積変形		
	底辺	高さ	面積	底辺	高さ	面積
平行四辺形	もとの三角形と等しい	もとの三角形の半分	等しい	もとの三角形と等しい	もとの三角形と等しい	2倍
	もとの三角形の半分	もとの三角形と等しい	等しい			
長方形	もとの三角形と等しい	もとの三角形の半分	等しい	もとの三角形と等しい	もとの三角形と等しい	2倍
	もとの三角形の半分	もとの三角形と等しい	等しい			

(3) 展開 (本時 5 / 13 時)

時間(分)	学 習 活 動	○教師の働きかけ ・ 予想される反応	□評価 ○支援 ・ 留意点
5	1 前時までの多角形の面積の求め方を確認する。	○今までの学習でどのような形の面積を求めることができるようになりましたか。 ・長方形 ・正方形 ・平行四辺形 ○今まで習った面積の求め方を使えば、答えを求めることができましたね。	・平行四辺形の公式はその過程を説明させる ・既習の面積の求め方を使えば面積を求められたことを確認する。

10	2 本時の学習内容を知り、ルーブリック「学びのステップ」を確認する。	<p>○今日のルーブリックのめあてを確認しましょう。</p> <p style="text-align: center;">三角形の面積の求め方を考えよう！</p> <p>○どんな形に変形すればできそうですか？</p> <p>・平行四辺形 ・長方形 ・正方形</p> <p>○今日はこのようなめあてです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「学びのステップ」⑤三角形の面積の求め方を考えよう！</p> <p>長方形などに 変形できなかった 求積する時知っている 形に変えることができた 三角形の面積を 求めることができた！</p>  </div>	<p>・既習の形に直せば面積を求められたことを再度確認する。</p>
10	3 三角形の面積の求め方を考える。	<p>○自分の考え方をホワイトボードに書き込みましょう。配付した三角形が書かれている紙は切ったり折ったりしても良いです。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">等積変形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長方形に変える。 ・平行四辺形に変える。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">倍積変形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つつなげて平行四辺形に変える。 ・長方形に変える。 </div> </div>	<p>・三角形が複数かかれた方眼紙も配布する。</p>
10	4 自分や友達の考えを発表する。	<p>○三角形の面積の求め方を発表しましょう。</p>	<p>・児童にネームプレートを移動させる。</p>
5	5 三角形の面積の求め方をまとめる。	<p>○自分が最も『はかせ』だと思った方法をノートに整理しましょう。</p>	<p>考 三角形を既習の図形に変形して、三角形の面積を考えることができる。</p> <p>【ノート】</p>
5	6 三角形の面積を求めるのに必要な情報を考える。	<p>○様々な変形の仕方が出ましたね。さて、自分が選んだ解決方法で、次の三角形の面積を求めてみましょう。</p>	<p>技 三角形の面積を計算して求めることができる。</p> <p>【ノート】</p>

II 実践を終えて

1 授業改善の視点

(1) ルーブリックによる意欲向上

日々の授業でめあてを提示し、それに向かってなんとなく授業を進めていた。子どもたちは真剣に活動するが、何か物足りないような様子を見せていた。

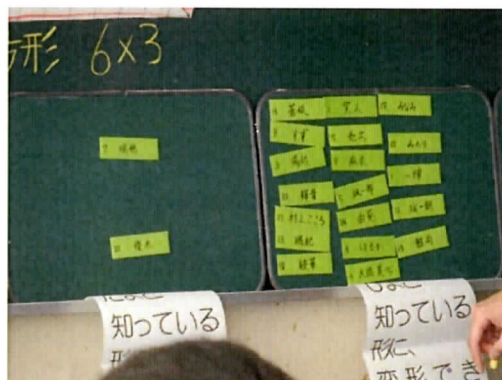
そこで、子どもたちが学習する意欲の向上を目指してルーブリックを採用した。初めに単元を通してルーブリックを利用していく旨を子どもたちに伝えた。すると「1学期のあれか!」「全部ゴール(A評

価)を目指すぞ!」と意気込む様子が多く見られた。単元を通してスモールステップの目標を明確にすることで、子どもたちはその目標の姿に近付こうとしていた。また、子ども同士で「おっ!『ひよこ』になった!」「オレはもう『にわとり』に突入だ!」と互いに刺激し合い、切磋琢磨する姿も見られた。また、約10分ごとに次の目標を出すので飽きにくく、リズムカルな展開をすることができた。

本時では、まず三角形を変形して既習の形に直すことが目標だったが、方眼紙をもらったから、すぐに作業に取りかかっていた。学力が低い子どもたちも、「まずは知っている形に…」と目標をつぶやきながら三角形を切ったり貼ったり試行錯誤する姿が見られた。

多くの子どもたちは既習の形に直そうとすることはもちろん、「先生、ループリックの次の目標は面積を求めることでしょ?」と得意気に面積の求め方を見せに来た。さらに少人数ではあるが、「先生!こんな変形をすると、三角形のここここをかけることと同じになるから変形しなくても解けるかも!」と、次時の目標まで先読みし、公式に結び付く解答を示した子どももいた。無意識だとは思いますが、自分自身で次へ次へと自分の目標を設定していたのである。

このように、ループリックは子どもたちをスモールステップで本時のねらいにせまるための有効な手立てであった。



ループリックを示して
ネームプレートを移動する

(2) ノート指導による学習理解の促進、ホワイトボードによる学び合いの充実

本実践の前、学習指導をしていて以下の2つのことがよくあった。

1つ目は、ノートに消し跡が多くあり、大変見にくいこと。子どもたちは日々ノートに自分の考えを書く。ただ、「やっぱり違うかな?」と消して書き直す。こんな作業が数回続いた結果である。子どもたちも自分のノートに消し跡が残るより、きれいで見やすいノートにしたいという思いがあった。

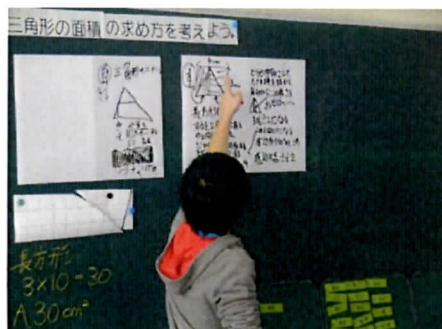
2つ目は、子どもが黒板に自分の考えを示す時に、時間がかかること。考えを発表したい子どもが挙手をする。黒板の前に立ち、チョークを手にとって書く。これだけでも時間がかかるが、中には黒板の前に立ち、「あれ?」と疑問の表情を見せて自分の席にあるノートを見に戻る。待ち時間が長いので、飽きてくる子どもも出てきてしまっていた。

これら2つのことを解消するため、ホワイトボードを採用した。単元を通して、自分の考えはノートに書かせず、ホワイトボードに書かせた。文字を消す際も、軽い力で簡単に消えて、ノートもきれいに保てるので子どもに好評だった。また、書いたものをそのまま黒板に貼れるようにしたため、発表する時間の短縮につながった。

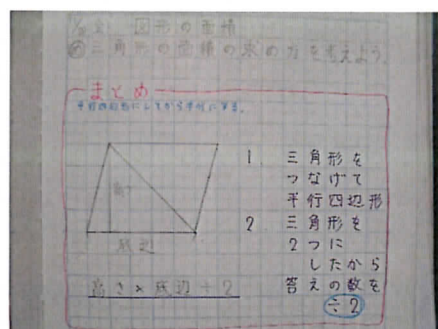
ノートには、聞いた発表と自分の考えをもとに、ねらいとそれに即した自分なりのまとめをさせた。そうすることで、子どもは本時で学んだことを明確にし、授業者は子どもの授業の理解度が分かり、評価をしやすくすることにつながった。



ホワイトボードに考えを書く



ホワイトボードで説明



ノートにまとめる

II 成果と今後の課題

1 成果

(1) ルーブリックによる意欲向上

- ・子どもたちが本時のめあてを把握し、学習活動がどこに向かうか理解できる点で有効であった。
- ・スモールステップで低位の児童にも挑戦しやすかった。
- ・学級全体で底上げしようとする態度を養うことができた。

(2) ノート指導による学習理解の促進、ホワイトボードによる学び合いの充実

- ・個の考えを全体で共有するのに有効であった。
- ・書いたり消したりするのが楽なので、手軽に書くことができた。
- ・隣同士やグループ内で説明する際にもとても有効であった。

2 今後の課題

(1) ルーブリックによる意欲向上

- ・最後まで「C」に残る児童に対する配慮や支援を考える必要がある。
- ・何もできないことが「C」という基準でよいのか。最低でも到達するべき基準をどこに据えるか検討が必要。
- ・「C」にいて、いつまでもふてくされているような児童がいる場合、考慮する必要がある。

(2) ノート指導による学習理解の促進、ホワイトボードによる学び合いの充実

- ・今回は、考えを書き留める紙を複数用意しておき、様々な考えを次々と出させた方が良かった。その考え方を子どもたちにネーミングさせ、数学的な観点と絡めながらまとめさせるとなお良い。
- ・教師の負担は大きくなるが、定着するまで、各自のノート確認と添削指導が必要である。

別紙① 図形の面積

名前 ()

各時間のルーブリック「学びのステップ」

時	観点	めあて	達成している具合		
			C	B	A
1	関心 ○ 意欲	いろいろな四角形の面積を求めよう	長方形の面積を求めることができなかった。	長方形の面積を求めることができた！	平行四辺形の面積を求めようとした！
2	考え方	平行四辺形の面積の求	知っている形に	平行四辺形の面	平行四辺形の

○		め方を見つけ出そう	変えることができた。	積を求めることができた！	公式の仕組みが分かった！
3 ○	技能	こんな平行四辺形でも面積を求めることができるかな？	知っている形に変えることができなかった。	知っている形に変えることができた！	平行四辺形面積を求めることができた！
4 ○	技能	川にかかっている橋の長さを調べよう！	平行四辺形面積を求めることができる。	橋の長さが分かった！	練習問題も解けた！
5 ○	考え方	新しいことを知っていることに変えよう！ ～三角形の面積～	長方形などに変形できなかった。	知っている形に変形することができた！	三角形面積を求めることができた！
6 ○	考え方 知識 理解	三角形面積の求め方を見つけ出そう	長方形などに変形することができた。	面積を求めるために必要な長さが分かった！	練習問題の三角形も公式で解けた！
7 ○	知識 理解	こんな三角形でも面積を求めることができるかな？	長方形などに変形できなかった。	知っている形に変えることができた！	三角形面積を求めることができた！
8 ○	技能 知識 理解	川の長さを調べよう！ ②	三角形面積を求めることができる。	橋の長さが分かった！	練習問題も解けた！
9 ○	考え方	台形面積の求め方を見つけ出そう	長方形などに変形できなかった。	知っている形に変形することができた！	三角形面積を求めることができた！
10 ○	考え方	ひし形面積の求め方を見つけ出そう	長方形などに変形できなかった。	知っている形に変形することができた！	三角形面積を求めることができた！
11 ○	考え方	こんな〇〇角形でも面積を求めることができるのかな？	長方形などに変形できなかった。	知っている形に変形することができた！	三角形面積を求めることができた！